

第27期の業績の概況



株式会社 秋川牧園

ごあいさつ

皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第 27 期（平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで）の営業の概況につきましてご報告申し上げますので、よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。

さて、私が社長に就任いたしまして、1 年が経過いたしました。おかげさまで、消費者の健康志向、食べ物の安全志向はさらに高まりつつあり、当社はこの面において着実な信頼とご支持をいただきつつあります。一方、この分野における参入の増加と競争の激化が進行しており、既存部門の強化と新規分野の育成をより協力に進めていくことが当社の重要課題であると考えております。

今後とも、価値創造の努力を継続し、秋川牧園ブランドの確立と中長期的な成長に向けて、全社一丸となって取り組む所存であります。

皆様には、何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 18 年 6 月



代表取締役社長 秋川 正

営業の概況

企業集団の営業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国の経済は、堅調な企業収益を背景に株式市場も活況を呈し、雇用環境の改善によって個人消費が緩やかに回復するなど、景気は底堅く推移いたしました。

食品業界におきましては、価格競争が一層厳しくなる一方、消費者の食の安心、安全、健康に対する関心は年々高まっており、先駆的に取り組んできた当社グループに対して大きな期待が集まりつつあります。

特に冷凍食品事業においては、この間の商品開発体制の強化により、顧客のご要望に的確にお応えすることができ、売上が大きく伸張しました。また、新規事業である宅配事業も、会員数の増加と客単価の上昇により売上は順調に増加しました。

一方、鶏肉事業におきましては、価格競争の激化が進んでおり、収益環境は一層厳しいものとなりました。また、鶏卵事業につきましては、鶏卵相場の低迷により鶏卵の需給調整コストが膨らみました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は 38 億 45 百万円（前連結会計年度比 5.1% 増）、営業利益は 60 百万円（同 20.1% 減）、経常利益は 49 百万円（同 32.4% 減）、当期純損失は 7 百万円（前連結会計年度は 1 億 89 百万円の純利益）となりました。

事業別の状況は次のとおりであります。

事業区別	売上高（百万円）		生産高（百万円）	
	第 26 期 （平成 17 年 3 月期）	第 27 期 （平成 18 年 3 月期）	第 26 期 （平成 17 年 3 月期）	第 27 期 （平成 18 年 3 月期）
製造卸売事業	3,063	3,253	3,039	3,364
宅配事業	595	592		

製造卸売事業におきましては、鶏肉は価格競争の激化等の要因により売上が減少しましたが、冷凍加工食品の売上の大幅な伸張などにより、売上は 32 億 53 百万円（前連結会計年度比 6.2% 増）となりました。

宅配事業につきましては、売上は 5 億 92 百万円（前連結会計年度比 0.5% 減）となりましたが、これは前連結会計年度は子会社の合併に伴い 1 ヶ月多い 13 ヶ月の売上であったため、同条件での比較では、会員数の増加と客単価の上昇により、7.9% の増加となっております。

企業集団の設備投資の状況

当連結会計年度において実施した企業集団の設備投資額は1億35百万円であり、その主なものは品質管理体制の強化に伴う、研究棟の建設であります。

企業集団の資金調達の状況

当連結会計年度におきましては、当社子会社である㈱チキン食品において、銀行借入により60百万円の資金調達を行いました。

企業集団の対処すべき課題

食の安心・安全志向がさらに高まる中で、この分野への参入者も増加し、市場が拡大する面と競争が激化する面とが混在して進んでいます。一方、食の安心・安全志向は、よりトータルな健康志向へ、また、食の信頼への関心の高まりや日本農業の改革の必要性から、ビジネスとしての農業への期待という新しいトレンドが育ちつつあります。

当社は、34年前からの先駆的な取り組みにより、農業の生産の現場、食品加工、さらには消費者に対する生活提案機能までを既に持っており、今後の成長に向けて、グッドポジションにいると認識しています。

そこで、今後の展開につきましては、効率化や商品開発の強化により、成熟分野の一層の競争力の強化を進めると同時に、新規分野である健康産業分野や農業のビジネス化の分野でもイニシアティブをとり、当社の第2の成長期を創出してまいります。

（健康、安心、安全の秋川牧園ブランドの確立）

創業以来、当社が先駆的に取り組んだ食の安心・安全はいまや時代の大きな核となり、ほとんどの消費者が認める共通の価値観となってきました。また、近年では健康や環境との調和を目指すライフスタイルである「LOHAS」が注目されるなど、そのトレンドはさらに大きく育ちつつあります。この分野で、パイオニアとして高い評価をいただいている当社であります。秋川牧園ブランドをさらに確立すべく信頼性や品質の強化に努めてまいります。

（フードデザイン～健康な食の提案）

消費者が食の安心・安全を求める一番の理由は、生活習慣病の予防など「健康」のためであります。そこで、今後は食の安心・安全に対する当社グループの優位性をキープしつつ、さらに消費者の「健康」に対して、より広く貢献できる提案力、開発力を確立していきたいと考えています。それは当社グループの考える「フードデザイン」のコンセプトであり、宅配事業のスマイル生活を中心に、食べ方提案や食生活コンサルティング、医と食の融合、健康をより意

識した加工食品の開発などを今後展開していきたいと考えています。

（顧客志向の徹底と売上の拡大）

既存の製造卸売事業につきましても顧客志向を徹底し、個々の顧客に、より密着した商品の開発と提案を積極的に行い、売上の拡大を目指します。

（効率化のさらなる推進）

新しい分野へ積極的に投入する経営資源を確保するためにも、生産性の向上、コストダウンを引き続き全社を挙げて進めてまいります。特に、前連結会計年度に事業を譲り受け、当社の100%子会社とした鶏肉の一次処理場である㈱チキン食品につきましては、当社の鶏肉事業とのトータライズにより、品質強化と効率化を同時に推進することができており、今後も引き続き改善を重ねていきます。

企業集団及び当社の営業成績及び財産の状況の推移

企業集団の営業成績及び財産の状況の推移

	第 24 期 (平成 15 年 3 月期)	第 25 期 (平成 16 年 3 月期)	第 26 期 (平成 17 年 3 月期)	第 27 期 (当連結会計年度) (平成 18 年 3 月期)
売上高(千円)	4,009,932	3,649,148	3,658,746	3,845,257
経常利益(千円)	98,559	74,890	73,798	49,906
当期純利益(千円)	7,888	8,674	189,382	7,153
1株当たり当期純利益	1円38銭	2円43銭	45円33銭	1円71銭
総資産(千円)	3,881,595	3,720,801	4,084,951	3,948,522
純資産(千円)	1,709,684	1,626,584	1,734,395	1,648,635

- (注) 1. 記載の金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。
 2. 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数により算出しております。
 3. 第26期における当期純利益の大幅な増加は、子会社でありました㈱スマイル生活との合併に伴い、繰越欠損金に対して繰延税金資産を認識したことによるものであります。

当社の営業成績及び財産の状況の推移

	第 24 期 (平成 15 年 3 月期)	第 25 期 (平成 16 年 3 月期)	第 26 期 (平成 17 年 3 月期)	第 27 期 (当期) (平成 18 年 3 月期)
売上高(千円)	3,883,456	3,499,226	3,560,995	3,815,878
経常利益(千円)	178,475	134,912	85,383	12,562
当期純利益(千円)	95,820	69,425	217,202	26,591
1株当たり当期純利益	22円42銭	16円26銭	51円99銭	6円37銭
総資産(千円)	4,167,747	4,143,546	3,984,586	4,005,925
純資産(千円)	2,121,056	2,113,613	1,810,443	1,705,245

- (注) 1. 記載の金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。
 2. 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式総数により算出しております。
 3. 第26期における当期純利益の大幅な増加は、子会社でありました㈱スマイル生活との合併に伴い、繰越欠損金に対して繰延税金資産を認識したことによるものであります。

当社の株式

当社が発行する株式の総数	8,000,000 株
発行済株式の総数	4,179,000 株
株主数	712 名
	(前期末比 17名増)
1単元の株式数	1,000 株
大株主	

株 主 名	当 社 へ の 出 資 状 況		当社の該当株主への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)	持株数(株)	出資比率(%)
秋 川 正	1,133,500	27.2	-	-
秋 川 實	427,000	10.2	-	-
秋川牧園職員持株会	377,400	9.0	-	-
株式会社山口銀行	200,000	4.8	30,000	0.0
秋 川 喜 代 子	147,000	3.5	-	-
秋 川 壽 子	123,300	2.9	-	-
山口県信用農業協同組合連合会	120,000	2.9	-	-

株価の推移

(1) 最近5年間の事業年度別最高・最低株価

回 次	第 23 期	第 24 期	第 25 期	第 26 期	第 27 期
決算年月	平成 14 年 3 月期	平成 15 年 3 月期	平成 16 年 3 月期	平成 17 年 3 月期	平成 18 年 3 月期
最高(円)	656	629	770	850 755	1,000
最低(円)	597	597	598	700 700	797

(注) 最高・最低株価は、平成 16 年 12 月 13 日よりジャスダック証券取引所におけるものであり、それ以前は日本証券業協会の公表のものとあります。なお、第 26 期の事業年度別最高・最低株価のうち、 は日本証券業協会の公表のものとあります。

(2) 最近6ヶ月の月別最高・最低株価

月 別	平成 17 年 10 月	11 月	12 月	平成 18 年 1 月	2 月	3 月
最高(円)	910	975	950	950	950	1,000
最低(円)	860	895	905	920	932	929

連 結 貸 借 対 照 表

(平成 18年 3月 31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	【1,676,802】	【流動負債】	【1,868,918】
現金及び預金	649,670	支払手形及び買掛金	327,639
受取手形及び売掛金	419,306	短期借入金	1,270,000
有価証券	10,300	未払法人税等	8,502
たな卸資産	336,495	賞与引当金	21,300
繰延税金資産	42,458	その他	241,477
未収入金	186,120		
その他	34,322	【固定負債】	【426,199】
貸倒引当金	1,872	社債	100,000
【固定資産】	【2,271,284】	長期借入金	162,600
(有形固定資産)	(1,665,074)	退職給付引当金	125,785
建物及び構築物	754,505	その他	37,814
機械装置及び運搬具	167,098	負債合計	2,295,118
土地	679,188		
建設仮勘定	6,307	少数株主持分	4,768
その他	57,974		
(無形固定資産)	(120,057)	(資本の部)	
連結調整勘定	112,175	【資本金】	714,150
その他	7,882	【資本剰余金】	681,030
(投資その他の資産)	(486,151)	【利益剰余金】	234,044
投資有価証券	62,210		
長期貸付金	271,154	【株式等評価差額金】	21,252
繰延税金資産	114,747	【自己株式】	1,841
その他	38,041	資本合計	1,648,635
貸倒引当金	2		
【繰延資産】	【435】		
社債発行費	435		
資産合計	3,948,522	負債、少数株主持分 及び資本合計	3,948,522

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

連 結 損 益 計 算 書

〔平成 17年 4月 1日から
平成 18年 3月 31日まで〕

(単位：千円)

科 目	金 額	
(経 常 損 益 の 部)		
【 営 業 損 益 】		
営 業 収 益		
売 上 高		3,845,257
営 業 費 用		
売 上 原 価	2,861,502	
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	922,754	3,784,254
営 業 利 益		60,999
【 営 業 外 損 益 】		
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	6,028	
補 填 金 収 入	1,298	
そ の 他	7,508	14,835
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	22,239	
社 債 利 息	600	
そ の 他	3,089	25,928
経 常 利 益		49,906
(特 別 損 益 の 部)		
【 特 別 利 益 】		
保 険 解 約 益	2,452	
固 定 資 産 売 却 益	2,101	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	14,261	
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	604	19,419
【 特 別 損 失 】		
固 定 資 産 売 却 損	625	
固 定 資 産 除 却 損	1,783	
連 結 調 整 勘 定 償 却 額	9,763	
減 損 損 失	1,394	
保 険 解 約 損	1,284	
ゴ ル フ 会 員 権 売 却 損	190	15,042
税金等調整前当期純利益		54,282
法人税、住民税及び事業税		6,048
法人税等調整額		53,990
少数株主利益		1,397
当 期 純 損 失		7,153

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

貸 借 対 照 表

(平成 18年 3月 31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	【1,694,850】	【流動負債】	【1,974,447】
現金及び預金	494,654	買掛金	470,664
受取手形	2,824	短期借入金	1,270,000
売掛金	418,759	1年内返済予定長期借入金	66,800
有価証券	10,300	未払金	76,682
商製品	13,890	未払費用	56,861
製成品	61,175	未払法人税等	7,816
原材料	26,853	未払消費税等	3,601
仕掛品	214,308	預り金	1,841
貯蔵品	6,590	賞与引当金	20,180
前払費用	2,170		
短期貸付金	98,610		
繰延税金資産	24,163		
未収入金	318,082		
その他	4,340		
貸倒引当金	1,873	【固定負債】	【326,232】
【固定資産】	【2,310,639】	社債	100,000
(有形固定資産)	(1,327,350)	長期借入金	66,400
建築物	557,402	長期未払金	34,046
構築物	110,546	退職給付引当金	125,785
機械装置	97,468	負債合計	2,300,679
車両運搬具	10,807	(資本の部)	
工具器具備品	26,363	【資本金】	【714,150】
動産	3,875	【資本剰余金】	【681,030】
土地	520,887	資本準備金	681,030
(無形固定資産)	(7,371)	【利益剰余金】	【290,654】
ソフトウェア	4,767	利益準備金	100,000
その他	2,604	任意積立金	101,000
(投資その他の資産)	(975,916)	農業基金積立金	60,000
投資有価証券	62,200	別途積立金	41,000
子会社株式	60,000	当期末処分利益	89,654
子会社出資金	40,700		
長期貸付金	681,197	【株式等評価差額金】	【21,252】
繰延税金資産	102,338	【自己株式】	【1,841】
その他	29,484	資本合計	1,705,245
貸倒引当金	4		
【繰延資産】	【435】		
社債発行費	435		
資産合計	4,005,925	負債・資本合計	4,005,925

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

損 益 計 算 書

〔平成 17年 4月 1日から
平成 18年 3月 31日まで〕

(単位：千円)

科 目	金 額	
(経 常 損 益 の 部)		
【 営 業 損 益 】		
営 業 収 益		3,815,878
売 上 高		
営 業 費 用		
売 上 原 価	2,947,435	
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	847,707	3,795,142
営 業 利 益		20,736
【 営 業 外 損 益 】		
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	13,155	
受 取 配 当 金	273	
そ の 他	1,170	14,599
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	20,317	
社 債 利 息 費	600	
社 債 発 行 費	435	
そ の 他	1,420	22,773
経 常 利 益		12,562
(特 別 損 益 の 部)		
【 特 別 利 益 】		
保 険 解 約 益	2,452	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	14,261	
貸 倒 引 当 金 戻 入 益	1,139	17,852
【 特 別 損 失 】		
固 定 資 産 売 却 損	84	
固 定 資 産 除 却 損	528	
減 損 損 失	1,394	2,006
税 引 前 当 期 純 利 益		28,407
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		5,352
法 人 税 等 調 整 額		49,646
当 期 純 損 失		29,591
前 期 繰 越 利 益		116,246
当 期 未 処 分 利 益		89,654

(注) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しています。

利益処分

(単位：円)

科 目	金 額
当 期 未 処 分 利 益	89,654,607
計	89,654,607
これを次のとおり処分します。 株 主 配 当 金 (1 株 に つ き 1 5 円)	62,649,750
次 期 繰 越 利 益	27,004,857

業績の予想

来期の事業収益の見通しといたしましては、連結では売上高 40 億 60 百万円、経常利益 57 百万円、当期純利益 21 百万円、単体では売上高 40 億 33 百万円、経常利益 16 百万円、当期純利益 6 百万円を見込んでおります。

以上